

令和3年度

自己評価報告書

評価対象期間

自: 令和3年4月1日

至: 令和4年3月31日



学校法人 トヨタ名古屋整備学園

専門
学校

トヨタ名古屋自動車大学校

目 次

はじめに	2	基準5 学生支援	20
1、学校の理念、教育目標	3	5-25 就職支援	21
2、本年度に定めた重点的に取り組むべきこと	4	5-26 就学支援	21
3、評価項目の達成及び取組状況	5	5-27 経済的支援	21
基準1 理念と中長期計画	6	5-28 健康管理	22
1-1 理念・目的・育成人材像	7	5-29 課外活動等	22
1-2 学校の特色	7	5-30 留学生支援	22
1-3 学校の将来構想	7	5-31 卒業生支援	23
基準2 学校運営	8	5-32 保護者との連携	23
2-4 運営方針・事業計画	9	5-33 高校との連携	23
2-5 運営組織	9	基準6 教育環境	24
2-6 人事・給与制度	9	6-34 施設・設備・教材	25
2-7 意思決定	10	6-35 産学連携(学外・海外研修等)	25
2-8 業務改善	10	6-36 防災・安全管理体制	26
2-9 福利厚生	11	基準7 学生の募集と受入れ	27
2-10 情報公開	11	7-37 募集広報	28
2-11 コンプライアンス	11	7-38 入学選考	28
基準3 教育活動	12	7-39 学納金	28
3-12 教育目標	13	基準8 財務	29
3-13 教育システム	13	8-40 財務基盤	30
3-14 カリキュラム編成	14	8-41 予算計画と執行	30
3-15 教科運営	15	8-42 監査	30
3-16 教員育成	15	8-43 財務情報の公開	30
3-17 成績評価・単位認定	16	基準9 法令等の遵守	31
3-18 付帯事業など	16	9-44 関連法令の遵守	32
基準4 学修成果	17	9-45 個人情報保護	32
4-19 教育の到達度	18	9-46 学校評価	33
4-20 就職	18	基準10 社会貢献・地域貢献	34
4-21 資格取得	18	10-47 ボランティア活動	35
4-22 出席率・退学率	19	10-48 学校リソースの活用	35
4-23 卒業生の評価	19	4、学校評価の総合的な結果と対応	36
4-24 受賞等	19		

1、はじめに

- (1) 本校の自己評価報告書は、平成25年3月に文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」に示された内容を基に作成しています。
- (2) 評価項目は、「私立専門学校等評価研究機構」が、同ガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書Ver4.0」を適用しています。
- (3) 小項目の取組状況は、下記に示す1から5のランクで自己評定しています。

5：適切に対応している。
4：適切に対応しているが課題があり、改善への取組が期待される。
3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善が必要である。
2：対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善に取り組む必要がある。
1：全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

2、学校の現況

(1)学校法人及び学校名

学校法人:学校法人トヨタ名古屋整備学園
学校名 :専門学校トヨタ名古屋自動車大学校
理事長 :横山裕行
校長 :永田 透

(2)所在地 :愛知県清須市春日一番割1番地

(3)沿革 :本校は、昭和36年にトヨタ自動車販売株式会社(当時)が設立、平成2年に学校法人となり、現所在地へ移転した。

創立当時の校名は中部日本自動車整備学校であったが、三回の校名変更を経て現在に至る。日本のモータリゼーションの発展と共に車両のメンテナンスの重要性が増大する中、ベストなコンディションを維持し、安全で安心して運転ができ、環境問題にも対処するために自動車整備士の養成が急務となり、トヨタがいち早く設立したものです。国家資格三級自動車整備士を養成する1年課程をスタートさせ、クルマ社会の発展や時代の変化に呼応して2年課程の自動車整備科、4年課程の高度自動車科を開設。更に、女性ショールームスタッフ科、車体整備専攻科、車体整備研究科、国際自動車整備科を開設し、現在に至っている。

3、自己評価委員の構成

委員長: 永田 透(校長)

委員 : 金子 寛(教育部 主査) 菊田直樹(教育部 GM) 官林佳希(教育部 TL)
谷川亮太(教育部 主任) 深田卓也(教育部 主任) 小林 治彦(教育部 主任)

1.学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>本校は、学校の使命・目的・意義を定めた基本理念を基に、教育目的や育成人材像を表した「教育理念」を制定している。この教育理念を具現化するため教育方針を示し、自動車整備技術や知識のみならず、社会人として必要な資質と人間性を兼ね備えた人材の育成に全校あげて努めている。</p> <p>全職員が教育理念を共有し、学校の使命である人材育成を継続、更に発展させていく。</p> <p>～基本理念～(平成27年度改定)</p> <p>人格、技術ともに優れた人材を育成することにより、自動車産業の発展と社会の繁栄に貢献する。</p> <p>～教育理念～(平成27年度改定)</p> <p>個性を尊重しつつ、幅広い素養と自動車に関する高い専門性を持った人間性豊かな人材を育成する。</p>	<p>教育理念で定めた内容の達成を教育目標としている。それらの実現に向け、教育方針の中に「技術力・人間力を育成する教育の推進」「自ら考え、行動する力の向上に向けた取組」を挙げている。また、原理・原則等のクルマの基礎の修得を重視、車好きな学生の育成、退学抑止に繋がる取組を継続している。</p> <p>MEDAL(メダル)教育※と称して学生指導の5本柱があり、「意欲」「表現力」「規律」「学力」「リーダーシップ」があり、在学中の様々な場面での言動を評価・指導している。新技術及び情報化社会の進展を先取りし、最先端技術の習得、PC等を活用した授業や自学自習ができる環境を整えて、目標の達成に向け支援している。</p> <p>～教育方針～(令和3年度改定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)向上心に加え、柔軟で自由な思考力、交換を抱かれるお客様対応力を育む 2)時代に応じた実践的な知識と技術を持った人材を育成する 3)個人として自立し、国際化・多様化する社会の中で協働できる力を養う

※MEDAL(メダル)教育：意欲・表現力・規律・学力・リーダーシップを英語表記し、その頭文字から作った言葉。人間性を高める教育。

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

令和3年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>1)次期中期計画2025年ビジョン</p> <p>国内外を問わず一番に選ばれる「先進・国際自動車大学校」(Global First Call College)として輝きを増し、使命を果たす</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国籍に拘わらず志のある優秀な学生を育成、国際色豊かで多様性に溢れた学校 ■ クルマの電動化・自動化等に対応したトヨタ最新技術を学べる先進校・走行体感型(リアル)+ICT(バーチャル)の併用による独自のハイブリッド授業の構築 <p>2)教育・環境(高度化/国際化/デジタル化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自動車の高度化に対応できるコア人材の育成とカリキュラム・教育手法の開発 ■ 国籍にこだわらない優秀な学生の育成と支援策の導入 ■ 新基幹システムの導入による業務の質向上 <p>3)教職員・風土(多様化/成熟化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 次世代教員ニーズに合致した人材の幅広い募集・活用・育成 ■ 職員・学生ニーズ・満足度(ES調査)を踏まえた学校運営の改善 <p>4)募集・就職(高度化・成熟化・デジタル化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 販売店との連携による入学者増への取組み継続 ■ 接触者の掌握向上とOC来校者の受験率向上 ■ 日本語学校との関係強化・拡大(留学生) ■ 採用環境変化への対応 <p>5)経営(安定収益確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 入学400名・在籍学生数1000名以上の安定確保 ■ 固定費圧縮の継続と固定費の変動費化(外部人材の活用) ■ 直営3校の協業による調達コストの低減 ■ 講習G(一般企業支援)の領域拡大による収入増 	<p>年度事業計画が策定され、この中に中長期計画や年度の重点項目が数値等で具体的に発表される。</p> <p>これは、4月1日に学校方針・部方針説明会を開催し、職員全員に資料を配布、校長や各部代表者が内容の説明をすることで、職員の意識と目標を一致させている。</p> <p>総務部・学生部・教育部の各部が年度の部方針を作成するに際し年度重点目標の達成に向けた実施事項を策定する。</p> <p>部方針には年間計画が示され、計画から実施・報告までの内容を1ヵ月単位で具体的に表記するようにしている。</p> <p>また、実施事項には担当及び責任者が決められており、半期毎に進捗状況や結果について上司との間でのミーティングを実施、経営会議で評価し、方向付けしている。</p> <p>未着手や進捗遅れが確認された場合は、計画の見直しや問題点を洗い出し対策を打つようにして、PDCAサイクルを回す仕組みとなっている。</p>

3. 評価項目の達成及び取組状況

基準1 理念と中長期計画

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p><総括> 基本理念や教育理念は、機会あるごとに、書類、ホームページなどにより内外に提示している。 また、平成27年4月より環境変化と複数の設置学科に対応した内容に改定された。平成30年度からは毎朝、朝礼時に全職員で基本理念、教育理念などを唱和し意識の浸透を図っている。</p> <p>特徴とする技術教育と人間性教育は十分な知識を有する教員が主導し、教育理念とも整合性がある。 その内容も就職先企業への定期ヒアリングなどにより適時見直されている。</p> <p><課題> 特に問題は無い。</p>	<p>特に無し。</p> <p>平成30年度より実施している職員朝礼での唱和は、次年度も継続する。令和3年度は、唱和をコロナ禍で一時中止。</p>	<p>特に無し。</p>

基準1 理念と中長期計画

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準1 理念と 中長期計画	1.理念・目的・ 育成人材像	1 学校の理念・目的・育成人材像・部方針などが明確に定められているか、また時代の変化に対応し、適宜見直しされているか	○					5	5
		2 当該学科における目標、育成すべき人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	○						
		3 各学科の教育目標、育成人材像は、時代の変化に対応し、業界のニーズに合わせて方向づけられているか	○						
		4 理念・目的・育成人材像等は、職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	○						
	2.学校の特色	1 学校における職業教育の特色は何か	○					5	
	3.学校の将来 構想	1 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を描き、中長期計画を持っているか	○					5	

現状 具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><1-1 理念・目的・育成人材像> 理念などはキャンパスナビに明記されており、新入生に配布する。また職員には、校内掲示や朝礼時の唱和で周知され、パンフレット、ホームページへの掲載で外部へも公表されている。各設置学科のポリシーは、キャンパスナビに明記されており、毎年作成する教育部方針との整合性を図りながら、各科の在籍期間を通じた教科の計画を作成する。</p>	<p>特に無し。 30年度より実施している職員朝礼での唱和は、次年度も継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスナビ※ ・学校(総合)パンフレット ・教育部年度方針 ・年間カリキュラム ・教科予定・実績表 ・ホームページ
<p><1-2 学校の特色> 自動車産業の高度化と多様化に伴い、複数の学科を設置。また人間性教育の一環としてキャリア教育計画を作成して実施。教育計画については、販売会社との懇談会や卒業生の評価により、随時企業ニーズをカリキュラムに反映させている。令和元年度からは、トヨタサービスを担う人材を育成する学校として、TEAM-GPを取り入れ、就職先のニーズに応える。豊富な教材やテストコースを活用した体感型授業があり、国家1級整備士を取得した多くの優秀な教員による技術教育を実施している。</p>	<p>TEAM-GPの実施(運用)について、カリキュラム内のバランスを考慮し、体感型授業との連携を精査する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校(総合)パンフレット(1-1参照) ・OC学校紹介パワーポイント ・入学式概要説明パワーポイント ・キャリア教育年間計画表(年間カリキュラム1-1参照) ・販売会社と意見交換会(会議資料) ・TEAM-GPの概要(会議資料) ・テストコースのパンフレット ・設置学科別パンフレット ・設置学科開設資料(会議資料) ・ホームページ
<p><1-3 学校の将来構想> 毎年作成する事業計画に組み込まれ、職員に展開している。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各年度事業計画書(会議資料)

※キャンパスナビ：学生に配布する冊子で、学則・施設利用案内・行事など学園生活に必要な情報が記載されている。

基準2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>〈総括〉 学校運営方針は、骨子に基づき定められ職員が理解している。</p> <p>運営組織は経営会議で意思決定がなされ、議案に応じて決裁制度(H11年策定・H21年一部変更)に基づき、学内稟議を経て校長決裁を行い、業務分掌化されて確実に展開している。また、決裁制度について、ラミネートした資料を管理職へ配布し徹底を図っている。</p> <p>また、経営会議内容を、運営会議・各部会議で展開している。</p> <p>計画に基づき学校運営に必要な人材を育成しており、人事評価表と個別面談による評価システムも確立している。また、評価に伴う給与などの規定は規程集(就業規則などを記載)に定められ職員に周知されている。</p> <p>教員採用は計画に準じて行い、事務員については欠員時に補充している。</p> <p>〈課題〉 特に問題は無い。</p>	<p>新任の管理職へ決裁制度に対して説明の徹底を継続実施していく。</p>	<p>特に無し。</p>

基準2 学校運営 (1/3)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準2 学校運営	4.運営方針・事業計画	1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	○					5	5
		2 学校運営方針はきちんと職員に明示され、伝わっているか	○						
		3 学校運営方針に基づき事業計画が定められているか	○						
		4 学校は事業計画に沿って運営されているか	○						
	5.運営組織	1 運営組織や意志決定体制は、学校の目的、目標を達成するため効率的なものになっているか(有効に機能しているか)	○					5	
		2 組織の構成員それぞれの業務分掌と責任が明確になっているか	○						
	6.人事・給与制度	1 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	○					5	
		2 人事・給与に関する規程等は整備されているか	○						
		3 採用計画はあるか	○						

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><2-4 運営方針・事業計画> 骨子に基づき中長期及び年度の方針について定め、年度初めに職員に対し方針の説明を行っている。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> 各年度事業計画(1-3参照)(会議資料) 各一部部方針
<p><2-5 運営組織> 各委員会やプロジェクトは定期的に会議を開催し、運営会議では議事録も作成され、実施に向けて業務が分掌され着実に運営している。経営会議内容を、運営会議・各部会議で展開している。</p>	特に無し	<ul style="list-style-type: none"> 理事会議事録 評議員会議事録 運営会議議事録 各一部部方針(2-4参照)
<p><2-6 人事・給与制度> 「人財育成プログラム」に準じて、研修・講習を実施。実施後は、報告会を実施。人事評価表により、実施事項に対し半年毎に面接し、評価を実施している。評価は人事評価会議により最終決定されている。給与規定等に関しては規程集を全職員に配布し周知されている。教員に関しては、長期採用計画を作成し計画的な採用を実施しており、令和3年度はトヨタ販売会社より、1名の出向職員を教員として採用している。事務員の採用計画は作成されておらず、退職があれば補うこととしている。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> 人財育成計画 教育部夏季研修 規程集(ブルーブック参照) 人事評価制度 解説書 等級別職制表 賃金制度解説書 教員採用人数について

基準2 学校運営 (2/3)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準2 学校運営	7.意思決定	1 業務上の意志決定システムは整備されているか	○					5	5
		2 意志決定の際、役職毎の判断・権限等は明確か	○						
	8.業務改善	1 業務効率化を図るシステム化がなされているか	○					5	
		2 学生の情報を効率的に管理するシステム化がなされているか	○						
		3 職員の提案を広く受け入れる環境であるか	○						

現状 具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><2-7 意思決定></p> <p>毎月1回の経営会議により重要案件が議論され、その内容が運営会議や日常の業務連絡などで各リーダーへ報告され、職員へ周知される。また、事案に応じて決裁規程に基づき、学内・校長の稟議を行っている。職制表により各構成員と責任者は明確になっている。理事会・評議員会では事業計画、年度予算、学則変更等の重要案件の報告と承認を得ている。 トヨタ東京校・神戸校やトヨタ自動車への報告なども案件毎に実施している。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・決裁基準および手続き一覧 ・職制表 ・委員会・プロジェクト
<p><2-8 業務改善></p> <p>基幹系システムにより個人情報などが管理され、セキュリティの高い状況で正確な情報の出力が可能になっている。 また名簿などは、エクセルでのマスタファイルを基幹ドライブに保存して、帳票作成に利用している。 学生情報の管理にはサイボウズ(グループウェア)も稼動しており、そこで、学年ごとに学生の情報交換がなされている。 業務改善に係る提案が係長以下から毎年200件以上あり、提案内容は電子掲示板を使い、全職員に周知できる環境になっている。また、提案件数・内容によって、表彰する制度も整備されている。提案を広く受け入れるために、グループ賞を設け、更なる活性化を図った。 令和元年度には、学校魅力プロジェクトとして、職場風土の向上と、学生の満足度向上を図るためにES・CSアンケートを実施し、改善に取り組んだ。</p>	ES・CSアンケートを元に、学校の魅力を向上させる改善に取り組み中。	<ul style="list-style-type: none"> ・サイボウズ画面 ・提案制度規約 ・ESアンケート結果 ・CSアンケート結果

基準2 学校運営 (3/3)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準2 学校運営	9.福利厚生	1 職員に対する福利厚生は充実しているか	○					5	5
	10.情報公開	1 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	○					5	
	11.コンプライアンス	1 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	○					5	

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><2-9 福利厚生> カフェテリアプラン^{※1}など学校独自の福利厚生を実施している。 令和元年度より、私学共済からの人間ドック診療補助の見直しに伴い、学校補助の利用の仕方を変更した。また、カフェテリアプランを誕生月以外の人間ドッグの補助に利用できるように変更した。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・福利事業規則 ・職員オープンビット運用ルール ・ESアンケート結果(2-8参照)
<p><2-10 情報公開> 学校での行事は随時ホームページにアップロードしており、誰でも閲覧できる。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ(トビックス)
<p><2-11 コンプライアンス> ・地域の消防及び警察と連携して年3回、学生に講話を実施し、日常起こりうる事件の未然防止をしている。 また、地域住民からご意見があった場合の担当部署も決められており、ご意見があった場合、速やかに対応している。 ・近年重視されている自転車の安全ルールについて、HRでの連絡・指導や掲示などで学生に法令順守を徹底させている。 ・改正健康増進法の施行に合わせ、令和元年7月より校内全面禁煙とした。</p>	特に無し	<ul style="list-style-type: none"> ・講話実施要領 ・自転車安全ルール

※1 カフェテリアプラン：誕生月に特別休暇の取得や記念品等の購入費用の補助などを行う。

基準3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p><総括> 基本理念などが明確で、展開も適切といえる。年度ごとの目標は業界のニーズを加味し、毎年教育部方針として作成している。</p> <p>授業運営にはシラバス*が作成されており、シラバスの統一性確保のため教科予定・実績表へシラバス欄を付加した。また、学生による授業評価を実施し、都度フィードバック改善が行われている。</p> <p>一種養成基準を大幅に上回る授業時間数により専門教科に加え、資格取得、実践的な職業教育も十分と言える。</p> <p>教員育成も[人財育成委員会]によって計画的に実行している。</p> <p>進級認定は学則基準に基づき、会議にて客観的に審議している。</p> <p><課題> 特に問題は無い。</p> <p>業界ニーズを反映出来るよう、意見交換の対象会社、地域を適切に選定し、継続的に実施していく必要がある。</p>	<p>業界ニーズを反映出来るよう、教育課程編成委員会を含め、意見交換の対象会社、地区を適切に選定し、継続的に実施する。</p> <p>授業アンケートの結果による教員のインストラクション技術について、随時反映・改善を実施する。</p>	<p>メーカー校であるため卒業生の多くがトヨタの販売会社に就職しており、その利を活かし、業界ニーズは忌憚のない率直な意見として吸上げることができている。</p> <p>また、カリキュラムにおいては情報も最新で、教材も含め新技術への対応は迅速。</p>

※シラバス：授業の項目や達成目標、使用する教材、時間数等を記載したもの。

基準3 教育活動 (1/4)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準3 教育活動	12.教育目標	1 教育目標は、業界の人材ニーズレベルに照らして、またカリキュラムを勘案して、到達することが可能なレベルとなるよう、明確に定められているか	○					5	5
	13.教育システム	1 目標達成のために、教育内容、手法、授業形態などを有効に機能させる教育システムを確立しているか	○					5	
		2 学生による授業評価を実施し、その結果を教育に反映しているか	○						

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><3-12 教育目標> キャンパスナビ、学内掲示などを通し、学校の基本理念・教育理念・教育方針を明確に表示している。 また、メーカー校の特長を生かして業界とのパイプも太く、「販売会社意見交換会」「卒業生評価アンケート」を各々2年に1回ずつ交互に実施、その情報を加味しながら教育部方針を作成し、レベルに適した見直しを行っている。 令和3年度は「トヨタ販売会社意見交換会」を実施。</p>	<p>特に無し。 今後も業界ニーズを反映出来るよう、教育課程編成委員会を含め、意見交換会の対象会社、地区を適切に選定し継続的に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスナビ(1-1参照) ・販売会社意見交換会まとめ ・教育部方針(1-1参照)
<p>職制表で責任者・担当者が明確になっており、また科目ごとのシラバスにより教育内容・手法・授業形態の要領も明確で継承可能になっている。 シラバスの記載内容・活用方法は、教科グループごとの意向により実施されている。 授業アンケートは「人財育成プログラム」にて、目的、実施方法が示されており、アンケートの結果による学生の修得不足の項目については随時反映・改善を実施している。 シラバスを教科予定・実績表に付加することでファイル管理を一元化し、実施内容の引継・継承を確実なものとした。 授業アンケートの業務指示部署として、教育部の「人財育成委員会」を専任部署として継続的な実施を可能とした。</p>	<p>特に無し。 アンケート結果による学生の修得不足の項目について、随時反映・改善の実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職制表(2-7参照) ・令和3年度教科予定・実績表及びシラバス ・授業アンケートのあり方 ・授業評価アンケート用紙

基準3 教育活動 (2/4)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準3 教育活動	14.カリキュラム 編成	1 カリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	○					5	5
		2 カリキュラムは法で定められた履修時間のみならず、教育成果の向上のために十分な時間が計画されているか	○						
		3 カリキュラムの内容について、自動車業界など外部の意見を反映しているか	○						
		4 カリキュラムを編成する部署は明確であり、定期的に見直しを行っているか	○						
		5 目標とする資格はカリキュラム上で明確に定められているか	○						
		6 目標とする資格の取得をサポートできる教育体制になっているか	○						
		7 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの作成・見直し等が行われているか	○						
		8 関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ等)が体系的に位置づけられているか	○						

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><3-14 カリキュラム編成> カリキュラムにおいては年度ごとの部方針を基に、各学年・教科の方針を作成している。履修時間数のうち専門科目は一種養成基準より大幅に余裕を持って設定されており、十分な計画としている。 自動車業界との意見交換などは毎年行っており、会議報告を経て反映している。全科のカリキュラム編成の担当者が分かるよう、組織図に明記。 資格取得に関しては、サポートは年間授業計画及び教科シラバスに明記され、担当者は学年ごとの業務分担表に記載されている。 キャリア授業は、就職活動、情報倫理、社会人マナー教育を計画的に行っている。 また、26年から愛知日野自動車様より講師を招き、大型車の実践的教育を実施している。 インターンシップについて、自動車整備科は夏休み、高度自動車科・女性ショールームスタッフ科・車体整備専攻科、車体整備研究科は教科時間で行っており、各科の目的を明確化、実施要領書として受け入れ先にも提示し、相互理解のうえ行っている。 シラバスの統一性を確保するため、教科予定・実績表へシラバス欄を付加した。 各科のカリキュラム改定部署はH27年度職制表から、より明確となった。 平成30年度よりテストコースを活用し、体感型授業を導入し理解度の向上を図った。 トヨタセーフティセンス、ICS、ABS、TRCなどの安全装置に加え、4WD、アライメント、HV、FCVなどの体験走行も実施している。</p>	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部、学年、教科の方針 ・キャンパスナビ(1-1参照) ・教育科目別時間配分表 ・販売会社意見交換会要領(3-12参照) ・職制表(2-7参照) ・年度ごとのカリキュラム ・募集パンフレット(取得資格) ・シラバス(3-13-1参照) ・選択授業 授業科目・内容一覧 ・業務分担表(学年) ・業務分担表(教科) ・教科方針、特色・活動計画 ・教育部委員会(表) ・国家試験対策計画 ・就職ガイドブック ・実践的教育の実施要領 ・インターンシップ実施要領 ・安全装置体感授業実施要領

基準3 教育活動 (3/4)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準3 教育活動	15.教科運営	1 計画的で授業に適した教材を使用し、適時見直しをしているか	○					5	5
		2 各科目の教科予定・実績表が作成されているか	○						
		3 授業内容に対して計画や実施方法を把握・評価する体制があるか	○						
	16.教員育成	1 教員の整備技術力を向上させる研修があり、評価しているか		○				5	
		2 職員の指導力(インストラクションスキル)を向上させる研修があり、評価しているか	○						
	3 職員のマネジメント能力を向上させる研修を行っているか			○			5		
	4 関連分野における業界等との連携において、優れた教員を育成できるようにしているか		○						
	5 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		○						

現状 具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><3-15 教科運営></p> <p>現有教材は一種養成基準を十分満たし、監査資料をはじめ適切に管理されており、中長期計画・年度使用計画で適宜見直しを行っている。 教科予定実績表は各学科・学年ごとに作成し、教育部倉庫に整理して保管している。 教科(授業)の実施においては、年度ごとに学年・教科から方針などが会議を経て展開され、PDCAのサイクルを回しながら、運営している。</p>	<p>特に無し。 今後も継続的な実施が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材使用計画 教材更新計画 教科予定実績表(1-1参照) 職制表(2-7参照) 教育部部方針期末報告 管理部部方針期末報告
<p><3-16 教員育成></p> <p>技術力向上委員会が組織として形成されており、体系的に運用されている。 一種養成施設として指導員資格を有する教員を十分確保しており、国家一級自動車整備士の資格取得についても積極的に取り組んでいる。 令和3年度より、学校組織の成長、職員の成長を促進するための新人財育成プログラムを企画。新内容は、キャリアパス、研修プロセスマップの設定と、デジタル化、教員の専門知識、技術力育成プログラムで構成され、令和4年度より運用を開始する。</p>	<p>令和4年度は、管理部長が委員長、総括室長が事務局長を務め、学校委員会として運営する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育部委員会(表) 人材育成計画 教育を行う者一覧表

基準3 教育活動 (4/4)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準3 教育活動	17.成績評価・ 単位認定	1 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	○					5	5
		2 進級・卒業判定の基準は明確になっているか	○						
	18.付帯事業など	1 付帯事業および学生以外の受講生に対する取り組みの組織・体制は明確になっているか	○					5	

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><3-17 成績評価・単位認定> 科目の単位認定・試験点の合格基準はキャンパスナビに明確に表記され学生への開示も行っており、成績評価基準は成績証明書に具体的に記載されている。 修了基準は、学則及び細則に明記されており、修了の認定は第1回～第2回の修了認定会議で担当教員による審議を経て、校長が判定している。</p>	<p>特に無し。 今後も継続的な実施が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスナビ ・成績証明書 ・教科科目別時間配分表(3-14参照) ・修了認定会議議事録
<p><3-18 付帯事業など> ト名校教育センター(当校の講習担当部署)として、平成20年以降体系的に学外(企業、卒業生など)に対して、ニーズに応じた内容で自動車に関する講習を実施している。 令和3年は、コロナの影響で多くの企業講習が中止となった。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職制表(2-7参照) ・ト名校教育センター期末まとめ

基準4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p><総括> 学生教育、就職、資格取得、出席率・退学率の目標達成度は、部方針によって定められた目標と実際の結果(数値など)を比較することで行われている。</p> <p>退学者低減のため、コミュニケーションを重視した学生の指導をキメ細かく、継続実施している。意欲向上活動を実施して、退学率低減、出席率向上を図っている。</p> <p>卒業生評価は、販売会社懇談会での聞き取り実施、卒業生アンケートを隔年ごとに行い、それらを授業計画に反映している。</p> <p>受賞に関しては、明確な表彰基準に従って校内表彰を行っている。</p> <p><課題> 特に問題は無い。</p>	<p>退学者減に向けて、方策を講じ続ける。</p>	<p>特に無し。</p>

基準4 学修成果 (1/2)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準4 学修成果	19.教育の 到達度	1 専門教育に関する目標を達成したか	○					5	5
		2 人物教育に関する目標を達成したか	○						
	20.就職	1 学生の就職に関する目標を達成したか	○					5	
		2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	○						
	21.資格取得	1 整備士国家資格やその他の資格取得に関する目標を達成したか	○					5	

現状 具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><4-19 教育の到達度> 部方針によって技術教育に関する目標が定められ、年度末の評価を目標達成の指針としている。 人物目標や出席率も同様に部方針で定められ、年度末の評価を目標達成の指針として教育している。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部方針 ・部方針期末点検 ・修了認定議事録
<p><4-20 就職> 部方針によって内定率、第1希望内定率目標などが示され、卒業生就職・進学状況を目録達成の指針としている。 様々な就職支援(リクルートセンター・就職授業・校内企業説明会 他)に応じて就職活動が行われ、学生個々への支援ができるよう、就職活動履歴をデータとして保管している。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理部方針 ・卒業生就職・進学状況 ・トヨタ販売会社内定状況表 ・卒業予定者就職希望状況表 ・就職活動ガイドブック ・キャンパスナビ(1-1参照)
<p><4-21 資格取得> 部方針によって国家試験合格率の目標が定められ、実際の国家試験合格率を目録達成の指針としている。また、その他の資格取得に関しては、個人別に取得年月日をデータ管理している。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部方針(4-19参照) ・部方針期末点検(4-19参照) ・国家試験合否一覧 ・資格取得入力表

基準4 学修成果 (2/2)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準4 学修成果	22.出席率・ 退学率	1 出席率の向上が図られているか	○					5	5
		2 退学率の低減が図られているか	○						
	23.卒業生 の評価	1 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	○					5	
		2 卒業後のキャリア形成の状況を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	○						
	24.受賞等	1 クラブ活動などの成果が、大会等で受賞された例として特筆すべきものを記述できるか	○					5	

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><4-22 出席率・退学率> 部方針により皆勤率目標が示され、年間皆勤率を目標達成の指針としている。 同様に退学者数目標が示され、退学者数を目標達成の指針としており、学校と保護者が連携をとって退学の抑止に努めている。(退学者18名 前年度と比較し同数) 退学率低減、出席率向上に向けて、意欲向上活動を実施している。</p>	<p>特に無し。 退学者減に向けて、方策を講じ続ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部方針(4-19参照) ・教育部方針期末点検(4-19参照) ・退学者対策 ・退学者集計 ・皆勤率推移 累計、月間 皆勤率、出欠状況 ・個人別出席履歴 ・MEDAL(意欲)方針、資料
<p><4-23 卒業生の評価> 販売会社懇談会で卒業生の入社後の技術面や人物面などの聞き取りや意見交換会を販売会社にお願ひし、卒業生評価としている。また、評価が低かった点を、カリキュラム改善に活かしている。 入社後、早期退職者を無くすため、順応化対策を販売会社様の意見を踏まえ、立案し実施。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生評価調査まとめ ・一級課程卒業 調査報告 ・卒業生評価の集計結果 ・販売店意見交換会まとめ ・実技基礎項目(3-15 参照) ・教科予定実績表(1-1参照)
<p><4-24 授賞等> 学則及び細則の明確な表彰の基準に従って校内表彰を実施しており、表彰履歴をデータ保管している。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスナビ(4-19参照) ・表彰内容データ一覧 ・校内表彰学生申請用紙

基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p><総括> 就職指導・学生相談に関しては、就職専任職員と各クラス担任、更に遠方出身学生については府県別の担当職員も加わって、相談・アドバイスを行うサポート体制となっている。</p> <p>経済的な支援体制や健康管理面の支援体制についても全体的に整っている。</p> <p>適宜、学生相談に関する満足度調査を実施。その結果をもとに改善策立案を実施している。</p> <p><課題> 特に無し。 学生から具体的な要望に基づき学生相談の改善を継続して実施する必要がある。</p>	<p>学生からの具体的な要望に基づき学生相談の改善を継続して行う。</p> <p>留学生担当者表を職制表と照らし合せて、毎年更新する。</p> <p>コロナの状況が改善した際には課外活動をコロナ前のレベルに戻し課外活動を充実させる</p>	<p>特に無し。</p>

基準5 学生支援 (1/3)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準5 学生支援	25.就職支援	1 学生の就職支援に関する体制や施設が整備され、有効に機能しているか	○					5	5
		2 就職に関する授業や企業説明会を実施しているか	○						
	26.就学支援	1 学生相談に関する体制が全体的に整備され、有効に機能しているか	○					5	
		27.経済的支援	1 奨学金制度をはじめ、経済的側面に対する支援が整備され、有効に機能しているか	○					
	2 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか		○						
	3 学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか		○						

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><5-25 就職支援> 就職相談が可能な施設と専任職員により就職活動を支援している。 学生は誰でも求人票等の資料閲覧や相談が可能な体制となっている。 就職授業や校内企業説明会も実施している。 専任職員のみならず担任も含めたきめ細かい就職支援を行い、良い結果につながっている。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスナビ(1-1参照) ・就職ガイドブック(4-20参照) ・職制表
<p><5-26 就学支援> 担任制のクラス運営により第一相談職員が明確である。また学内で産業カウンセラーによる相談も可能で、利用方法も分かりやすく案内されている。 出身県別の担当教員による就学の支援をしている。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスナビ(1-1参照) ・職制表(5-25参照) ・府県高校担当表
<p><5-27 経済的支援> 学費・寮費・通学・帰省費用を支援する当校独自の制度があり、窓口も明確であり、公的な「日本学生支援機構」の紹介も行っている。 学生寮では寮監が常駐し、食事やベッドシーツの管理も含め安心して生活できる体制となっている。 経済的な問題をかかえる学生に対して相談に乗り、学生支援機構の緊急採用のアドバイスを行っている。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスナビ(1-1参照) ・募集要項 ・奨学金案内(日本学生支援機構)

基準5 学生支援 (2/3)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準5 学生支援	28.健康管理	1 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	○					5	5
		2 学生の健康管理を担う組織・体制があり、有効に機能しているか	○						
	29.課外活動等	1 スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	○					5	
		2 学生自治会が自主的に活動できる体制が整備され、有効に機能しているか	○						
	30.留学生支援	1 留学生の学習・生活指導等について、相談体制が整備され、有効に機能しているか	○					5	
		2 留学生の受入れ・在籍管理等適切な手続がとられているか	○						

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><5-28 健康管理></p> <p>毎年、学内にて専門機関による健康診断を実施している。検診結果に基づき看護師による個別指導を実施している。学内に看護師が常駐し、週に一度は校医が来校する体制となっている。産業カウンセラー(非常勤)によるカウンセリングを希望する学生は誰でも受けられる体制になっている。学食ではメニューにカロリー表示を実施。カロリーを抑えた健康メニューを設定。</p>	<p>特に無し。 今後も、更なる取組み継続が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスナビ(4-19参照) ・健康診断書 ・職制表(5-25参照) ・保健室利用状況報告書
<p><5-29 課外活動等></p> <p>14のクラブ・同好会が存在し、新入生へは4月にクラブ等の紹介説明会を実施。クラブ・同好会は当校の体育館やグラウンドを使用して活動している。クラブには顧問の職員がおり、地区大会や全国大会に出場して活躍している。自動車の学校らしく、自動車関係の活動もあり、車への興味・関心を深められるものである。令和3年度は、コロナの影響で思うように活動できず。自治会は存在し、定期会合を開き学園祭や試乗会(年2回)など積極的な運営を行っている。令和3年度は、コロナの影響で縮小して実施。(無観客)また、入学前のオリエンテーションやクラブ説明会で自治会の活動を新入学生にPRしている。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスナビ ・クラブ顧問担当表 ・教育部委員会表 ・自治会組織表 ・学園祭スケジュール
<p><5-30 留学生支援></p> <p>留学生担当の専任職員が面倒をみる体制となっている。留学生にも、警察署の協力のもと危機管理講習会も実施している。留学生危機管理対応マニュアルに基づいて指導している。留学生の当校受験資格は募集要項に明記され、入学試験での判断基準も明確に設定している。</p>	<p>留学生危機管理対応マニュアルの担当者表を毎年更新する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生マニュアル ・募集要項

基準5 学生支援 (3/3)

評価項目			自己評価 小項目					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準5 学生支援	31.卒業生支援	1 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	○					5	5
		2 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	○						
	32.保護者との連携	1 保護者と適切に連携しているか	○					5	
	33.高校との連携	1 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	○					5	

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><5-31 卒業生支援> 同窓会が組織化され、同窓会名簿も事務局で作成管理している。役員会を毎年実施し、隔年で地区懇談会も実施している。卒業生へは年に一度、学校近況をお知らせする学校新聞等を郵送している。 卒業生のフォローは、販売店の講師による授業や順応化を取り入れたカリキュラム実施と卒業時に当校の連絡先を明記したカードを配布し、気軽に相談できるようにしている。</p>	<p>特に無し。 早期退職者(入社1年目)が増加しつつある為、引き続き対策を推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会組織図 役員会議事録 地域懇談会実績 卒業時配布のカード
<p><5-32 保護者との連携> 授業参観を年に1回、当校にて実施しているが、令和3年度はコロナ禍のため縮小して実施。 授業参観時に保護者と担任との個別面談を実施している。担任制の為、保護者との連絡が取りやすい体制となっている。 家庭への定期的な連絡は本年度よりメールにて送っている。また、内容によっては従来どおり書面での発送を行っている。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観企画 職制表(5-25参照) 家庭連絡文書
<p><5-33 高校との連携> 高校からの要望による学校見学や出張授業を積極的に行っている。定期的に当校職員による高校進路指導室へ訪問を実施し、当校の紹介と共に整備士の理解をいただける説明を行っている。 全国自動車教育研究会の研修・見学会を当校にて実施している。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職制表(5-25参照) 高校出張授業資料(ハワゴ) 体験入学開催概要 体験入学実施事項 学生募集活動実施要領

基準6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p><総括> 施設・設備や教材については設置基準をクリアしている。また、学生寮など学生生活を更に充実させるためのfree Wi-Fiなどの諸設備は充実している。</p> <p>学外の企業や教育機関との連携も目的を持って実施している。</p> <p>防災・安全面においても、法基準とも照らし合せ、十分な体制と訓練を実施している。また、安全教育も授業に盛り込み、保険や緊急マニュアルも備わっている。</p> <p>保険については、定期的に見直しを行い、必要なものに加入。</p> <p>オカナガン大学*とは29年の深い関係にあり、当校の要望に対して積極的に対応しているが、業務上のやり取りについては、間違いを未然に防止するためにも書面で学校ファイルとして保管している。</p> <p>また、短期留学の実施や運営等について、オカナガン大学と平成27年5月に契約書を交わした。令和2年度は、コロナ禍で、海外研修・留学を中止</p> <p><課題> 学生寮トレーニングルームの機材のメンテナンスが完了せず、1年間使用できない状態であった。</p>	<p>オカナガン大学とは29年の深い関係にあり、当校の要望に対して積極的に対応しているが、業務上のやり取りについては、間違いを未然に防止するためにも書面で残し、学校ファイルとしていく。</p> <p>学生寮トレーニングルームの機材について、更新または廃棄を実施し、トレーニングルームの新たな有効活用方法を検討する。</p>	<p>特に無し。</p>

※オカナガン大学：カナダ・ブリティッシュコロンビア州にある大学。

当校は、1992年から毎年夏休み期間中に語学や自動車BPのプログラムに多数の学生が参加している。

基準6 教育環境 (1/2)

評価項目			自己点検評価表					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準6 教育環境	34.施設・設備・教材	1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	○					5	5
		2 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	○						
		3 教材のメンテナンスや更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	○						
	35.産学連携 (学外・海外研修等)	1 学外学習、インターンシップについて外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	○					5	
		2 海外研修、短期留学について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	○						

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><6-34 施設・設備・教材> 施設・設備については、文科省、国交省の設置基準を余裕を持って満たしており、寮施設や体育館、学生食堂、ラウンジなども持ち、設備を有効に活用するための手引き書も全学生に配布している。 また、施設・設備や教材について中長期保全計画を立てて、計画に基づき対応をしている。 なお、環境変化に合せ追加・早出しの更新も行っている。 5号館実習場の全フロアにエアコンを設置(全実習場エアコン完備)。授業環境の向上を図る。 校用車として、MIRAI、GRヤリスを購入、学生の車興味喚起を図る。</p>	<p>特に無し。 リニューアルの詳細決定と推進。 必要な教材は引き続き更新計画に基づいて、更新の実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文科省、国交省への提出書類 キャンパスナビ(1-1参照) 総務部 施設更新中長期計画 総務部 施設更新中長期計画(記録) 年度の施設修繕更新計画 教材中長期更新計画 教育部予算申請書 教育部部方針期末報告
<p><6-35 産学連携(学外・海外研修等)> 全科で目的を明確にした上でのインターンシップなどの学外授業を実施している。評価表および巡回指導等をもって効果測定も行っている。また、依頼先である企業とも覚書を取り交わしており、強い連携のうえで実施している。(自動車整備科1週間、高度自動車科7週間、車体整備専攻科3週間、車体整備研究科3週間、女性ショールームスタッフ科2週間) また、海外研修および短期留学ともに目的やカリキュラム上の位置づけは明確である。また、海外関係諸機関との連携では、トヨタ自動車やオカナガン大学と密に連携を取っている。 令和2年度は、コロナ禍で、海外研修・留学を中止</p>	<p>インターンシップについては特に問題はないが、強いて言えば、顧客ニーズの変化による企業対応について今まで以上に敏感にアンテナを張り、内容の修正を柔軟に行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ実施要領 評価表、インターンシップ視察まとめ 覚書 キャンパスナビ(1-1参照) 留学募集パンフレット オカナガン大学短期留学契約書 オカナガン大学スタッフとの連絡 海外研修 協力依頼、お礼文書 海外研修 行程

基準6 教育環境 (2/2)

評価項目			自己点検評価表					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準6 教育環境	36 防災・安全管理体制	1 防災・安全に対する体制は整備され、有効に機能しているか	○					5	5
		2 災害に備えた予防対策訓練が適切に実施されているか	○						
		3 安全教育の実施と実習時等の事故防止の体制は十分か	○						
		4 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	○						
		5 学生・職員の傷病に対して、病院等の十分な情報が整備され、緊急体制が整えられているか	○						

現状 具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><6-36 防災・安全管理体制> 年度初めには各組織より計画が提出され、定期的に進捗報告も行っている。 自衛消防組織を編成し、年度計画の作成や防災訓練の実施をもれなく実施している。大災害に備え職員向けマニュアル、学生向けの手引き書も配布している。 教育部方針には安全意識を向上する内容を盛り込んでおり、方針に基づいた教育の実施と事故防止体制がある。 事故等に対応できるように保険の加入は勿論、傷病への緊急対応マニュアルも備え付けてあり、医療機関などの一覧表が保健室に掲示してある。また、学生向けキャンパスナビには緊急連絡先一覧表が記載してある。 H26年度には他校の保険加入状況を確認し、現行加入保険の検証を実施。寮生の家財保険と個人情報漏洩保険へ加入。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会組織図 ・防災委員会組織図 ・各委員会実施計画 ・中間・期末報告資料 又は年間活動報告 ・防災訓練要領 ・消防計画 ・キャンパスナビ(1-1参照) ・教育部方針(1-1参照) ・緊急対応マニュアル ・医療機関等一覧表 ・加入保険比較

基準7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>〈総括〉 学校案内については当校ホームページ、パンフレット、募集要項を用いて具体的に分かりやすい内容を掲載し希望者には無料で配布している。</p> <p>管理部 学生室 募集グループを専用窓口としていると共に、府県別募集担当職員も設置し、高校訪問による説明やオープンキャンパス、各地区における説明会など、直接接する機会を設けている。また、個別の相談会も毎回必ず設け、志願者が理解しやすい体制としている。 直接来校できない志願者の為にオンライン学校説明会を実施している。</p> <p>入学選考については、選考基準を設定し、適正かつ公平に選考を行っている。</p> <p>学納金については、実習内容・施設・教材を含め適時、妥当な内容となるよう見直しを行っている。他校との比較も行い適正水準を考慮したものとなっている。また、学費の分納制度を設け無理のない納入ができるようにしている。</p> <p>〈課題〉 特に問題は無い。 ただ、広報活動において自動車整備への関心を高められる活動の継続的な展開も引き続き必要になっている。</p>	<p>募集パンフレットやホームページに掲載のデータや教育内容は、引き続き正確な内容を記載しながら、学校の内容を伝えるのみならず、自動車整備の魅力について今以上に最新の学校情報や自動車への興味喚起などトピックスを発信する。</p>	<p>特に無し。</p>

基準7 学生の募集と受入れ

評価項目			自己点検評価表					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準7 学生の募集 と受入れ	37.募集広報	1 学生募集活動は、適正に行われているか		○				5	5
		2 オープンキャンパスは志願者・保護者等に対し学校の理解が深まる内容になっているか	○						
		3 募集活動において、教育成果や資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	○						
4 志願者等の問い合わせ・相談に対する体制があるか		○							
	38.入学選考	1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	○					5	
	39.学納金	1 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感を考慮し、妥当なものとなっているか	○					5	

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><7-37 募集広報> パンフレット、募集要項等を希望者に配布、また定期的に高校訪問し、説明や希望者に対してオープンキャンパスで当校を理解していただけの体制となっている。また、教育成果、資格、就職などを正確に伝えている。オープンキャンパス時に学校の理解が深まるよう教場、教材、授業見学に加え、個別の相談会も必ず実施している。 2021年4月の国際自動車整備科入学生が70名。留学生を対象とした募集活動を引き続き実施している。 管理部 学生室 募集グループを学校相談・入試相談の専用窓口とし、問い合わせや相談に対応している。 府県別の担当制度により、個々の担当地区の対象者にキメ細かく対応している。 新型コロナウイルス感染予防の観点からオンライン学校説明会も実</p>	<p>定員が充足する為の更なる募集活動の見直しが必要。 新型コロナウイルスの影響で日本語学校の学生が激減しており、国際自動車整備科の募集地域の拡大など対策を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレット(1-1参照) ・ホームページ ・2021年度事業計画 ・2021年度管理部分針 ・募集要項
<p><7-38 入学選考> 選考基準及び可否基準を設定し、基準に基づき可否判定会議において適正かつ公平に選考を行っている。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項 ・入試小委員会会議資料 ・入学試験対応について ・入学試験可否一覧表 ・面接資料
<p><7-39 学納金> 実習内容・施設・教材を含め、適切なものとなっている。</p>	<p>特に無し。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項 ・消費収支計算書

基準8 財務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>〈総括〉 過去の収益データと見比べながら、今後の収益見通しを予測し、年度末収支予測、収入支出のバランスを確認しながら、予算業務を行っている。</p> <p>年度予算は、予算会議にて実施要件を確認し、予算額が決定さる。予算執行は、年度予算額を確認しながら行い、実績がオーバーする場合には、他の科目予算から科目変更を検討し、適宜調整している。</p> <p>翌年度の5月上旬までに公認会計士によって、適切に監査が行われている。 (令和2年度分については令和3年5月10日に実施)</p> <p>財務についてホームページに公表している。</p> <p>〈課題〉 特に問題は無い。</p>	<p>財務について平成26年9月からホームページに公表しており、毎年更新する。</p>	<p>特に無し。</p>

基準8 財務

評価項目			自己点検評価表					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準8 財務	40.財務基盤	1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	○					5	5
	41.予算計画と 執行	1 年度予算、中期経営計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	○					5	
		2 予算は計画に従って妥当に執行されているか	○						
	42.監査	1 財務について会計監査が適正に行われているか	○					5	
43.財務情報の 公開	1 私立学校法における財務情報公開に向けた組織体制が整備されているか	○					5		

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><8-40 財務基盤> 過去の収支データと見比べながら、今後の収支見通しを予測している。 また、適宜年度末の収支予測をしながら、収入支出のバランス確認を行っている。</p>	特に無し。	・H29～R4年度収益計画
<p><8-41 予算計画と執行> 年度予算は、予算会議で実施要件を確認しながら、予算額が決定されている。 年度予算を確認しながら、予算執行している。 実績がオーバーする場合は、他の科目予算から科目変更を検討し、適宜調整している。</p>	特に無し。	・R4年度予算計画及び収支見込 ・R3年度各部予算消費見込み 兼予算消化実績表
<p><8-42 監査> 翌年度の5月上旬までに公認会計士により、適切に監査が行われている。(令和2年度分の監査は令和3年5月10日に実施)</p>	特に無し。	・監査報告書(R2年度分)
<p><8-43 財務情報の公開> 計算書はホームページで公開、原本は管理部 総務室で常備している。</p>	特に無し。	・ホームページ ・計算書等3種(R2年度分)

基準9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>〈総括〉 専修学校設置基準と国土交通省の設置基準に準じて、管理職が周知しており、学校運営が実施されている。必要書類は保管期間、責任部署が明記され、内容に準じて保管している。 危険物などに関する事柄に関しては、教員研修を実施している。</p> <p>個人情報、使用目的が学生配布のキャンパスナビに明記され、個人情報の取扱いに関する質問、ご意見対応なども担当窓口が明記されている。</p> <p>自己点検・自己評価を基に、学校関係者評価を実施、評価内容をホームページで公表している。また、その都度改善している。</p> <p>〈課題〉 特に問題は無い。 自己評価、学校関係者評価の公開している内容を毎年更新する必要がある。</p>	<p>自己評価、学校関係者評価の公表している内容を毎年更新する。</p> <p>今後、所轄官庁の要請を勘案しながら、JAMCA[※]で検討している第三者評価を受けることを検討中。</p>	<p>特に無し。</p>

※JAMCA: 全国自動車大学校・専門学校協会

基準9 法令等の遵守 (1/2)

評価項目			自己点検評価表					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準9 法令等の 遵守	44.関連法令の 遵守	1 関連法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	○					5	5
		2 関連法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、職員に対する啓発活動を実施しているか	○						
		3 法に定められた書類が把握され、整理と周知がなされているか	○						
	45.個人情報保護	1 個人情報の保護に関し、その保護のための対策がとられているか	○					5	

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><9-44 関連法令の遵守> 幹部職員により、専修学校設置基準と国土交通省の設置基準に準じた学校運営が点検されている。 危険物に関する事柄に関しては、教員研修を実施している。 倉庫内には、必要書類の保管期間・責任部署名が記入された掲示物が掲げられ、掲示に準じて保管している。 新任の管理職への説明の徹底。設置基準書の配布。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準 ・一種養成施設設置基準 ・監督官庁必要書類一覧
<p><9-45 個人情報保護> 個人情報は、使用目的が、キャンパスナビに明記されており、利用目的18項目、第三者提供17項目が明記されている。 個人情報の取扱いに関する質問、苦情対応なども担当窓口が明記されている。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護対策について ・キャンパスナビ

基準9 法令等の遵守 (2/2)

評価項目			自己点検評価表					中項目	大項目
大項目	中項目	点検内容等(小項目)	5	4	3	2	1	評価	評価
基準9 法令等の 遵守	46.学校評価	1 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	○					4	5
		2 自己点検・自己評価の結果を公開しているか	○						
		3 今後数年以内に、外部・第三者機関による学校評価を受ける予定か		○					

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><9-46 学校評価> 令和元年度の自己点検・自己評価、学校関係者評価を実施し、それを基に改善内容を実施。 26年度より自己評価、学校関係者評価の公表内容を毎年更新し、ホームページにて公表。 またJAMCAで検討している第三者評価受入れの為、研修会等に参加し準備を進めている。</p>	<p>今後、所轄官庁の要請を勘案しながら、JAMCAで検討している第三者評価を受けることを検討中。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価資料 ・学校関係者評価報告書 ・ホームページ

基準10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p><総括> 学校施設(体育館等)の貸し出しや学校周辺の清掃活動、交通安全活動など各活動の位置付けを明確にし、ボランティアを活発かつ持続的にを行っている。 また、教育部の組織としてボランティア委員会が設置しており支援体制もできている。</p> <p>当校のオリジナルである自動車の技術教育を児童、生徒、企業に対して提供している。</p> <p><課題> 地域の支えがあつての学校という観点から、引き続き地域貢献活動は更に積極的に実施する必要がある。</p> <p>令和3年度は、コロナ禍の為、活動自粛となった。</p>	<p>地域の支えがあつての学校という観点から、引き続き地域貢献活動は更に積極的に実施する。</p>	<p>特に無し。</p>

基準10 社会貢献・地域貢献

評価項目				自己点検評価表					中項目 評価	大項目 評価
大項目	中項目	点検内容等(小項目)		5	4	3	2	1		
基準10 社会貢献・ 地域貢献	47.ボランティア活動	1	ボランティア、地域貢献活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	○					5	5
	48.学校リソースの活用	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	○					5	
		2	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	○						

現状・具体的な取組等	課題と改善方策	参照資料
<p><10-47 ボランティア活動> 学校施設周辺の清掃活動を実施。 教育部の組織としてボランティア委員会が設置しており、ゴミゼロ運動、交通安全の立哨活動、障害者支援など必要に応じて学生、職員ともにボランティア活動を活発に行っている。毎年12月に全校あげて献血を実施している。 当校で実施しているボランティア活動内容を整理し、各活動の位置づけを明確にした。 災害が起きた時の募金等も協力している。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> 委員会組織図 ボランティア活動企画書 募金 献血
<p><10-48 学校リソースの活用> 地域の団体やクラブ所属連盟の大会において、当校の施設を提供するとともに、企業研修として当校の施設や教材を活用して自動車技術の教育を通じて、社会貢献・地域貢献している。また、校内説明会や一宮少年少女発明クラブ、当校学園祭にてもものづくりへの興味喚起や産業技術記念館における「週末ワークショップ」でエンジンの分解・組付け実習に講師として教員を派遣し職業教育を行っている。 令和3年度は、新型コロナウイルスの関係で各イベントが中止。 産業技術記念館の「週末ワークショップ」のみ実施した。</p>	特に無し。	<ul style="list-style-type: none"> ト名校教育センター 期末まとめ 学園祭資料 ワークショップ資料 (トヨタエンタプライズ) 一宮少年少女発明クラブ資料

4.学校評価の総合的な結果と対応

平成27年2月 文部科学大臣より、職業実践専門課程の認定を受け、平成25年に示された文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、令和3年度の自己評価と学校関係者評価を実施・公表する。

当校は基本理念のもと、教育理念や目標・育成人材像を定め、就職先が求める人材育成像を真摯に探求し、学生教育を行っている。高度自動車科、車体整備専攻科、自動車整備科、女性ショールームスタッフ科のそれぞれにおいて、企業の求める専門知識や技術、人間力を高める指導体制が整えられている。

これは学内での修養に留まらず、トヨタ販売会社・トヨタ自動車・トヨタ関係会社との連携や施設を活用した体験学習、様々なイベントに参加するなかで培われるリーダーシップ・コミュニケーション力・行動力などが人間力の形成に役立っている。

さらに近年の車の安全装置の高度化や、整備士不足に対応するべく、令和2年度より車体整備研究科、国際自動車整備科を立ち上げ、教育を始めた。

令和2年度の自己評価での改善事項を実施したが、今回の自己評価により新たな改善に取り組むことにより、①当校学生 ②保護者 ③就職先 ④当校進学希望者 ⑤地域社会からの信頼が更に高まるものと期待する。

今後とも優れた専門性と豊かな人間性を併せ持つ、次世代を担うスペシャリストを育成し、業界の発展ならびに汎く社会に貢献していきたい。